

令和2年度第4回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

日 時	令和3年1月8日(金) 10:00~12:00
場 所	TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール1
出席委員	久田真会長、松八重一代副会長、大原敦子委員、笠原建委員、齋藤敦子委員、齋藤優子委員、菅原博委員、鈴木公至委員、千田恵委員、中山隆治委員(代理出席)、西澤啓文委員、沼田隆委員、橋本啓一委員、藤田祐子委員、山田政彦委員、吉田美緒委員 以上16名
欠席委員	遠藤智栄委員、坂上温香委員、多田千佳委員、渡邊博之委員 以上4名
事務局	環境局長、環境局次長、環境部長、廃棄物事業部長、施設部長、総務課長、廃棄物企画課長、家庭ごみ減量課長、事業ごみ減量課長、事業ごみ減量課指導担当課長、施設課長
傍聴人	0名
次 第	1 開会 2 議事・報告事項 (1) 仙台市一般廃棄物処理基本計画答申案について (2) その他 3 閉会

議事要旨

発言者	議事要旨
久田会長	次第2 議事・報告事項(1) 仙台市一般廃棄物処理基本計画答申案について事務局より説明をお願いします。
廃棄物企画課長	<資料1、資料2、資料3に基づき説明>
久田会長	本日が答申に関する最後の審議となる。ただいまの事務局の説明について質問や意見をお願いします。
松八重副会長	<p>答申素案の審議内容を反映したコラムが追加されており、良くまとまっている印象を受けた。</p> <p>答申案 22 ページの「コラム4 マイクロプラスチックによる海洋汚染」というタイトルだが、海洋汚染に影響を及ぼしているのは、必ずしもマイクロプラスチックに限られたものではないため、「プラスチックによる海洋汚染」などの表現が望ましい。</p>
廃棄物企画課長	意見を踏まえ、マイクロプラスチックに限定されない表現に修正する。
久田会長	<p>その他に意見はあるか。</p> <p>資料1では、答申素案からの主な修正点を示しているが、10項目のうち8項目がコラムの追加による対応となっている。これらのコラムは、計画の策定や実行に関する補足情報として本審議会の意見が反映されており、読み物として良くまとめていると感じる。</p>
吉田委員	マイクロプラスチックの説明を、巻末の用語説明に加えるべきではないか。
廃棄物企画課長	用語説明に追記する。
久田会長	<p>その他に意見はあるか。</p> <p>仙台市の10年後のごみ減量目標が12%削減と報道された。報道内容と答申案の整合について確認したい。</p>
廃棄物企画課長	昨日の環境審議会において、杜の都環境プランの答申案で、資源循環都市づくりの定量目標として、ごみ総量を令和12年度までに

廃棄物企画課長	<p>12%削減することが示されたことから、その内容が報道されたものと思う。</p> <p>一般廃棄物処理基本計画については、答申案の 27 ページに、同様の内容を記載しており、報道の内容に相違ない数値である。</p>
久田会長	<p>その他に意見はないか。</p>
松八重副会長	<p>答申案 43 ページにある「6-4 脱炭素社会に向けた取り組み」の実施・検討すべき取り組みに「焼却施設へのEV供給設備導入の検討」と記載されているが、略語で表現するよりも「電気自動車への電力供給設備」などと丁寧な表現にした方が望ましい。</p>
廃棄物企画課長	<p>意見を踏まえ、修正する。</p>
齋藤優子委員	<p>答申案 47 ページでは、廃棄物の区分について図示されている。一般廃棄物や生活ごみ、事業ごみは、巻末の用語説明で説明があるのに対し、産業廃棄物についての説明がない。産業廃棄物についての説明を追加してはどうか。</p>
廃棄物企画課長	<p>意見を踏まえ、産業廃棄物の説明を巻末の用語説明に追加する。</p>
久田会長	<p>ただいまの意見に関し、災害廃棄物が一般廃棄物である旨の記述があっても良いと感じた。併せて検討いただきたい。</p>
廃棄物企画課長	<p>災害廃棄物が一般廃棄物である旨の記述は、巻末の一般廃棄物の用語説明に追記する方向で検討したい。</p>
橋本委員	<p>答申案 43 ページ「6-4 脱炭素社会に向けた取り組み」の説明に、「廃棄物処理に伴い発生する温室効果ガスの搬出量と算出と評価、また、余熱利用などの廃棄物エネルギーの活用の推進」との記述がある。脱炭素社会の実現に向け、温室効果ガスの排出量削減は大きな課題である。ごみの発生を減らし焼却処理量を削減することは、温室効果ガスの排出量を実質的に削減する手段である。</p> <p>一方でごみの焼却から発生する熱エネルギーを活用した廃棄物発電も大きな役割を果たしていると思う。焼却施設における冷暖房や温水などの余熱利用は、従前から取り組まれている内容であることである。本市の焼却施設では廃棄物発電も行っていることから、貴重なエネルギーを生み出す廃棄物発電を一層活用し、脱炭素社会の実現に取り組んでいく旨の記述を盛り込むべきではないか。</p>

<p>廃棄物事業部長</p>	<p>焼却処理から発生する余熱利用を例として挙げているが、指摘を踏まえ、より先進的な廃棄物発電の活用についての記述に修正するよう検討する。</p>
<p>久田会長</p>	<p>橋本委員に賛同する。答申案 43 ページで、廃棄物エネルギーの活用や事業化へ向けての検討を例示すると、さらに前向きなイメージに捉えられるのではないか。そこまでの記載については予算上の都合もあるので判断は任せるが、書きぶりでメッセージの伝わり方は大分変わると思う。</p> <p>その他に意見はあるか。</p>
<p>松八重副会長</p>	<p>答申案 33 ページ「コラム6 食品ロスについて」の出典が消費者庁HPより引用となっているが、カタカナ表記のホームページと修正する方が良い。さらには、ホームページよりは「ウェブサイト」が正しい表記ではないか。</p>
<p>廃棄物事業部長</p>	<p>本来はウェブサイトとの表記が正しいが、一般的にホームページとする表記も普及しており、本市でも市政だよりなど様々な広報の機会にホームページという文言を使用している。ウェブサイトと記載を改めるかについては再度確認・検討してまいりたい。いずれにしても、アルファベット表記については、カタカナ表記に改めたい。</p>
<p>久田会長</p>	<p>その他に意見はあるか。</p> <p>「コラム8 ワケルくんファミリー」については会長の希望で事務局に依頼した。打合せの中でワケルくんについて尋ねると、それぞれのキャラクターに名前があることや、ワケルくんがドイツからの帰国子女であると教えられた。このようなキャラクターは市民からも親しまれ、啓発効果が期待されると思っている。</p>
<p>大原委員</p>	<p>ワケルくんファミリーのコラムを読んで、セツコさんがワケルくんの奥さんではなくパートナーと記載されているのが気になった。</p> <p>また、ワケルくんファミリーを活用した啓発は効果的と感じるので、漫画などを利用した広報の展開を期待したい。</p>
<p>家庭ごみ減量課長</p>	<p>セツコさんが登場して以来、キャラクターの設定上、セツコさんはワケルくんの奥様ではなく、パートナーとしている。</p>
<p>久田会長</p>	<p>本日の審議後、市長へ答申となる。本日出席委員の皆様から、名簿順にご意見をお願いしたい。</p>

大原委員	<p>前回の答申素案の審議内容がコラムで反映されており、とても分かりやすい計画になったと思う。</p> <p>気になる点として、答申案 34 ページ「1-3 緑のリサイクル」に関して、杜の都仙台は、秋に沢山の落ち葉が発生することから、落ち葉や剪定枝がリサイクルされることは市民の関心が高まると期待している。緑のリサイクルが重点となっている割には、記述があっさりしていると感じた。</p>
笠原委員	<p>計画全体の構成は素晴らしい仕上がりだと思う。</p> <p>事業ごみの減量・リサイクルについて、事業者や行政が真剣に取り組むことは当たり前だが、生活ごみの減量・リサイクルは市民一人ひとりの参加意識や行動が非常に大きなポイントとなる。</p> <p>具体的な施策では、答申案 38 ページ、39 ページにワケルくんファミリーのキャラクターを含めた教育、若年層や外国人の方への排出ルールの浸透などについて、検討や更新、周知、啓発の言葉が並んでいる。大事なものは、その次の段階で、どう具体的なアクションを起こしていくのかであり、ワケルくんをどのように活用するかやデジタルネイティブの若者に向けたインフルエンサーによる周知などが考えられる。若い職員が同年代の感覚で発信していくような展開に期待する。</p>
齋藤敦子委員	<p>小学 4 年生が社会科で「ごみ」のことを学び、それぞれの学校で総合的な学習の時間に「環境教育」を取り上げている。答申案 38 ページに記載されている環境教育の推進には、とても大切なことが書かれていると思っており、特に 2 段落目の「小中学生自らが実践者となる」とある。これから令和 12 年度までにごみ総量を削減していくためには、大人だけではなく、実践者となる子供を育てていくことの重要性に、教員としても身を引き締めていかなくてはならないと思った。</p>
齋藤優子委員	<p>綿密な計画を策定されたと思っており感謝している。また、杜の都環境プランとの整合にも気配りされたと思っている。</p> <p>新たな計画では、ごみ総量を 12%削減する目標を掲げているが、この数値は全国的に見てもかなり挑戦的な目標であると感じており、目標を達成するためには、行政だけではなく、市民や事業者と一体となった取り組みが重要と思っている。杜の都環境プランと共通して「行動する人づくり」との記載があり、その点は連携して施策を進めていただきたい。</p> <p>また、今後 10 年間で本計画を進めていく中で、災害や太陽光パネル、リチウムイオン電池などの新たな廃棄物処理の対応も考えら</p>

齋藤優子委員	れ、柔軟な思考を持ちながら計画を進めていくことを期待している。
菅原委員	答申案は、素晴らしい内容で、とても分かりやすくてきたと思う。細かな文言等の修正はあるかもしれないが、内容については満足している。
鈴木委員	<p>よくできた計画であると思う。この計画を進めていくため、特に家庭におけるごみ減量等の施策は、町内会との連携が必要不可欠であるとする。もっと町内会に対してごみ減量等のPRを行い、市民が行動に移しやすい取り組みの実施に期待している。</p> <p>葛岡工場や今泉工場を見学した際に感じたことだが、まだまだ使えるものが捨てられている現状を目の当たりにすると、ごみ減量やリサイクルの意識が高まる。こういった施設見学をもっと町内会等へPRしてほしい。</p>
千田委員	<p>分かりやすく丁寧に作られており、とてもうれしく思う。また、巻末に用語説明も付いており、分かっているようで曖昧だった言葉についても確認することができた。</p> <p>一緒に住んでいる80歳代になる父が、プラスチックごみは全部プラスチック製容器包装の日に出すものだと思込んでいる。そういった固定観念を持った人にも、ワケルくんファミリーに活躍してもらい、正しい分別や排出ルールの周知を図っていただきたい。</p>
中山委員（代理：草刈様）	<p>普段から廃棄物処理に携わっている立場から見ても分かりやすい計画である。特にコラムは、市民の皆さんが読む気になるような内容になっていると感じており、他市町村の計画策定にも取り入れてもらいたいと思った。</p> <p>また、本計画には直接関係しないが、新型コロナウイルス感染症の流行が収束しない中、ごみ収集作業員が感染しないよう、国でもガイドラインを作成しているところで、排出者である私たちも排出ルールの徹底と感染防止に努めていただくことをこの場を借りてお願いしたい。</p>
西澤委員	<p>先日の議会で質問した内容と関係するが、答申案40ページ施策4の実施・検討すべき取り組みに「地域ごみ出し支援活動の促進事業」の推進が必要と書かれている一方で、43ページの「6-2 効率的な収集運搬体制の構築」との施策がある。</p> <p>これを見ると地域ごみ出し支援は、市民への配慮が感じ取れるが、収集体制の確立は、収集する側の立場での記載となっており、</p>

西澤委員	<p>市民への配慮の面で若干欠けている部分がある。各地域によってごみ集積所の設置場所が違い、大きな通りのある地域では、歩道に分散してごみ集積所が設置されている。他方で、道幅が狭く、坂道が多い地域では、200～300戸に1・2か所の集積所しか設けることのできない地域もある。高齢者や障害を持つ方が利用しづらい状況になっており、そのような現状を改善するような記載がないと感じた。高齢化が進行し、人のつながりの希薄化や地域全体の高齢化により、ごみの排出を隣人に頼みにくくなっている現状に配慮した上、収集体制についても考えていかなければならないと思う。</p>
沼田委員	<p>答申素案と比べコラムやイラスト等を掲載されて大変読みやすい計画となった。</p> <p>3Rの記載については、下線とアスタリスクが付いて、巻末の用語説明で説明しているが、31ページコラム5と66ページの用語説明には、括弧書きでスリーアールと後ろに付いているので、本文中の3Rにも括弧書きが付いていても良いと感じた。</p>
橋本委員	<p>これまでの審議における指摘事項や疑問点について、一つ一つ反映されて作成されている。これまで仙台市が行ってきた廃棄物行政で、成果が上がったもの、残念ながら良い結果につながらなかったものもあった。それらをしっかりと分析し、作り上げ議論したものが、この新しい一般廃棄物処理基本計画の答申である。この答申案の5ページに記載のとおり、それぞれの主体が責務と役割を担い連携して取り組む必要があり、その行動を促す広報や啓発にこれまで以上に努めていくことが求められると思う。</p>
藤田委員	<p>ごみ減量の施策は、食品ロスの削減やレジ袋などの使い捨てプラスチックの使用抑制が記載されているが、ものを大切に使うことや、まだ使えるものを捨てないなど、そもそもごみを発生させないことについての表現が薄い印象を受けた。消費社会の構造が問題の根底にあって、その社会構造を変えていかなければ、ごみ減量にはつながらないことを強く表記しても良かったのではないかと思う。</p> <p>どの審議会や協議会でも、専門家の方々が協議し立派な計画が出来上がっている一方で、市民の立場からはその実感がないなどのギャップが生じている。</p> <p>この計画の進捗が一市民として感じ取れるような施策の展開であるとか、実効性のあるものとなることを期待している。そのためにも、廃棄物行政だけではなく、様々な部署と連携した取り組みを行っていただきたい。</p>

山田委員	<p>少子化、高齢化、人口減少の中での一般廃棄物処理基本計画の策定とあって、その背景を考慮した計画となっている。</p> <p>廃棄物処理業界の立場から、経済合理性がないと物事がなかなか上手く進まない中で、先ほどから意見が多い環境教育は非常に重要な点であり、次世代に向けた人材育成に期待している。</p>
吉田委員	<p>コラムが入って非常に分かりやすくなった印象である。地球温暖化防止に向けた、2050年の二酸化炭素の排出量実質ゼロを進める観点からも、ごみの削減は重要な課題と思っている。地球温暖化防止推進計画も一般廃棄物処理基本計画のいずれも、いかに市民へ伝えていくかが重要であり、一般市民に分かりやすく伝える仕組みづくりについて、今後本審議会でも考えていけたら良いと思う。</p>
久田会長	<p>委員の皆様ありがとうございます。本計画に対する期待の大きさと、これから計画を実行する上で、どのように具現化していくのが腕の見せ所であり、今後の廃棄物行政に期待している。</p> <p>以上で、答申案に関する審議は終了とする。答申については、本日の審議を踏まえ、答申は会長に一任いただき、市長へ答申する。</p> <p>それでは、次に議事・報告事項（２）その他について、事務局より説明をお願いします。</p>
廃棄物企画課長	<p><参考資料に基づき説明></p>
久田会長	<p>本日の審議を踏まえ、市長へ答申後、し尿処理等の生活排水処理に関する事項を加えた計画を成案とし、3月に計画改定の予定との説明であった。ただいまの説明に関して質問や意見がなければ閉会する。</p> <p>円滑な議事運営に感謝申し上げます。事務局へマイクをお返しする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>